

〔科目名〕 地域みらい特殊講義Ⅰ	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 竹浪 比呂央	〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:	〔授業の方法〕 講義と実習
〔科目の概要〕 今や日本の火祭りとして世界にまで名を轟かせる「青森ねぶた祭」。国の重要無形文化財であり、まさに青森の宝でもある。 本授業では、出陣する山車・ねぶたそのものに焦点を絞り、構想・原画・ラッセランド等、制作過程を掘り下げながら、その美術性・芸術性を追求してゆく。 民俗行事由来の祭りではあるが、祭りとはまた違った視点で造形としてのねぶたに迫ってゆく。100年先のねぶた祭に繋げるためのねぶた学である。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 ねむり流しとしての灯ろう行事から毎年、延べ200万人以上の観光客が訪れる巨大な祭りとなるまでの歴史的流れを理解し、さらにねぶた制作史とでもいべき造形と表現の変化を学びながら、この先を展望し、青森の素晴らしさ発信に結びつけたい。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 前半はねぶた学。特に祭りの歴史や歴代ねぶた名人の作品を掘り下げ、さらに技法・表現についても講義してゆく。 最終的には、学生各々が、ねぶたの面のデザイン画を描く。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 授業の最後にコメント用紙に書いてもらい、次の授業に活かしてゆきたい。		
〔教科書〕 特になし		
〔指定図書〕 特になし		
〔参考書〕 必要に応じて授業時に紹介する。		
〔前提科目〕 なし		
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 毎回出席は取る予定である。 コメント用紙を書いてもらい評価。 試験は行わない。		
〔評価の基準及びスケール〕		
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 地域の文化であるねぶたに興味を持ち、知識を豊かにしてほしい。 ねぶた文化発信者として、社会に働きかける気持ちを育ててほしい。		
〔実務経歴〕		

授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): ねぶた学とは 内 容: ガイダンス。ねぶたについてそれぞれの考え方を知る。 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): ねぶたの由来と歴史(1) 内 容: 藩政時代(ねむり流し)から。ルーツは一緒、ねぶた ねぶた 教科書・指定図書
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): ねぶたの由来と歴史(2) 内 容: 青森市の歴史 教科書・指定図書
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): ねぶたの由来と歴史(3) 内 容: 青森港祭から日本の火祭り青森ねぶた祭へ 現在の審査について 教科書・指定図書
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): ねぶた制作について 内 容: 柿崎琴章・坂田金作 教科書・指定図書
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): ねぶた名人(1) (2) 内 容: 北川金三郎・北川啓三とその作品 教科書・指定図書
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): ねぶた名人(3) 内 容: 佐藤伝蔵とその作品 教科書・指定図書
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): ねぶた名人(4) 内 容: 鹿内一生とその作品 教科書・指定図書
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): ねぶた名人(5) 内 容: 千葉作龍とその作品 教科書・指定図書
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): ねぶた その造形と表現(1) 内 容: ねぶた師とは 教科書・指定図書
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): ねぶた その造形と表現(2) 内 容: 発想と構想 教科書・指定図書
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): ねぶた その造形と表現(3) 内 容: 構想から原画へ 教科書・指定図書
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): ねぶた その造形と表現(4) 内 容: 原画から本体制作へ 教科書・指定図書

第14回	テーマ(何を学ぶか):ねぶた その造形と表現(5) 内 容:これからのねぶた。ねぶたから NEBUTA へ ねぶた師からねぶた制作 教科書・指定図書
第15回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:面を描く 教科書・指定図書
試 験	